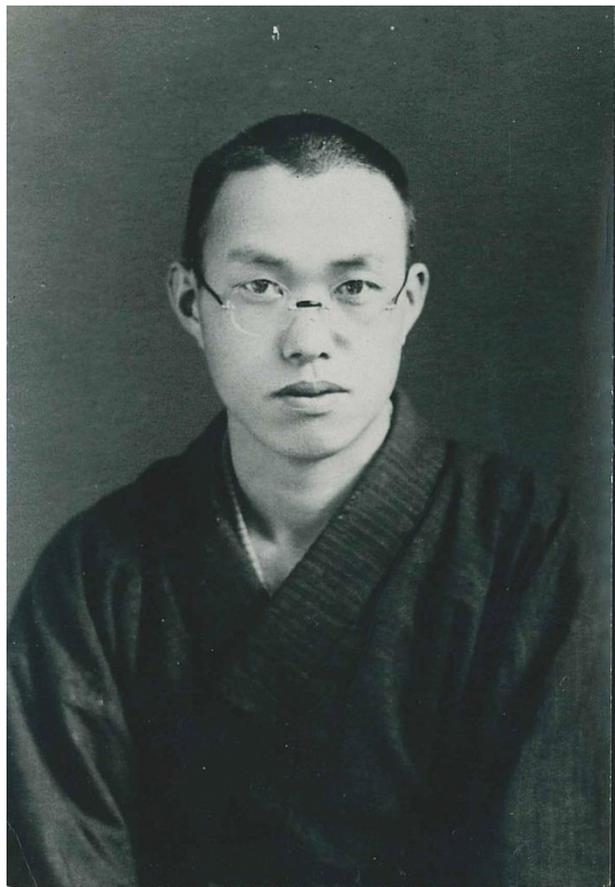


～子どもたちのための図書館講座～

「齋藤秀一を知っていますか？」

戦争の時代、ここ庄内・東荒屋村から言語（ローマ字・エスペラント語）で世界とつながろうとした言語学者がいました。その名も齋藤秀一（ひでかつ）。その功績は、近年各方面で大いに注目されています。今回、郷土が生んだ、世界にほこるべき人物について学びます。



令和4年12月3日（土）
10:00～11:30

鶴岡市立図書館
本館2F 講座室

講師：升川繁敏氏
（鶴岡市史編纂委員）
小田 郁氏
（元中学校教員）

◆申し込み 定員20名
直接、鶴岡市立図書館に申し込むか、
または0235-25-2525まで電話ください。
※11月22日（火）より受付します。

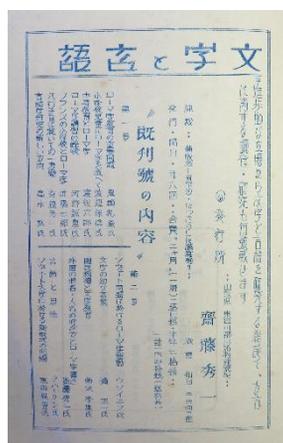
◆対象：小学校高学年・中学生・高校生。
保護者の方の参加も可。

『文字と言語』

『ローマ字の機関車』

◆齋藤秀一の生涯◆

- 1908年12月 山添村東荒屋（現在の鶴岡市東荒屋）泉流寺に生まれる。
- 1931年 3月 駒澤大学卒業。
- 4月 東田川郡大泉村尋常高等小学校大平分校に勤務。学校でローマ字を教える。
- 9月 「大泉ローマ字会」をつくり、機関紙「ローマ字のきかんしゃ」を創刊。
- 1932年 4月 同校八久和教場に転勤する。
- 9月 鶴岡警察署に検挙され、教職を辞めさせられる。
- 1934年 9月 『文字と言語』を創刊（13号まで）。
- 1935年 1月 『東京方言集』を出版する。
- 1937年 6月 自宅に「国際ローマ字クラブ」を設立。同日、エスペラント語による雑誌『ラティネーゴ』を創刊（2号は翌年3月発行）
- 1938年 5月 東北大学図書館に勤める。
- 11月 治安維持法違反の疑いで山形県特高課に検挙される。
- 1940年 4月 肺結核の病状が悪化し、自宅療養となる。
- 9月 腹膜炎を併発し、死去。32歳。



☞ エスペラント語とは・・・
1887年にロシア領ポーランドのユダヤ人眼科医L. L. ザメンホフによって考案された国際補助語。16ヶ条の簡単な文法規則と900余りの単語（現在は新語などの必要からもっと増えている）から成り、発音は1字1音となる。

主催：鶴岡市立図書館・山形県立図書館

（令和4年度やまがたの魅力の理解促進事業）